

令和2年度 学校自己評価の報告 (年度末)

上田市立武石小学校

学校教育目標	めざす子どもの姿	総合評価
だれにもやさしく げんきよく しっかり学ぶ武石の子	・思いやり、思い合い、 認め合う子ども ・自分を高めていける子ども	コロナ禍の中、子どもの健康や学習活動を中心に考え、保護者、地域、職員が一体となり、工夫して教育活動を行うことができた。

今年度の重点目標	成果と課題	総合評価	改善策・向上策	学校関係者評価
重点1 にこにこ交流 <笑顔でかかわり合える> ①つながりをつくる学級 安心できる人間関係づくり ②地域から学ぶ・地域の教育力を活用する。 ③健康、安全安心のための家庭・関係機関との連携	・各学級で、担任と児童、児童間の関係がよくなる活動をしたり、休み時間一緒に遊ぶ姿が見られた。 ・5、6年を中心にコロナ禍ならではの地域との交流が図られた。外部の方の力をたくさん借りた。 ・保健便り・食育だより等で家庭に知らせ、保護者も応えてくれた。	B	・6年生が行ったようにコロナ禍でも工夫して交流していく。 ・来年度は親子給食がなど評価を得られる機会があるとよい。 ・メディア・ゲーム等家庭での取り組みを強化していく必要がある。 ・これからも学校医や学校薬剤師に相談しながら教育活動を進める。	・コロナ禍の中でも子どもたちのために一通りの行事を感染対策をしながら無事開催してもらえたことは保護者としてありがたかった。 ・休校があり、本年度の学習内容を学習し終えることに重点が行ってしまったかもしれないが、「成果と課題、改善策」にあるように、「じっくり考える」「伝え合う」「自分の考えを深める」ことについて追究していき、日々の授業に生かして欲しい。家庭学習のあり方について放課後自習室の利用も含め、考えて欲しい。 ・メディアコントロールの取り組みはこれからもエリアトークの利用もしながら地域一体となって行ってきたい。
重点2 もくもく清掃 <心を磨く> ①自発性を育てる自問清掃 ②キャリア教育の推進 ③道徳教育・人権教育・特別支援教育の充実 ④自分たちでつくる児童会	・もくもく清掃ができた児童が多い。意義がわかっている児童とそうでない児童との差がある。「自分で気づく」ことがもう一歩か。 ・「自分から」という姿勢を育てたい。 ・言葉遣い・挨拶・呼び捨てなど気になる点がある。	B	・良さを認める声掛けを続ける。自分で考えて決める、見返しをし、自分の頑張りを自分で認める活動を大事にする。 ・計画的にキャリア教育や道徳・人権教育を推進するとともに日常生活場面で温かい言葉がけを職員が率先で行う。	・南部支会交流・小中連携は大変大事である。長和町とも連携して欲しい。練馬区との交流も大事にして欲しい。 ・あいさつ運動は学校だけでなく、PTAや地域PTAぐるみで推進したい。 ・学校への信頼関係を高めていけるよう努力をお願いしたい。 ・学校運営委員会の目的は学校・地域・家庭が連携していくことである。子どもたちを守るために力を出していきたい。
重点3 ばんばん学習 <わかる・できる・目が輝く> ①日々の授業の充実 主体的・協同的な学び・TT支援や教科担任制・授業のユニバーサルデザイン化 ②基礎基本の定着・学びの基本姿勢の徹底・「4つの学び」の日常化 ③武石っ子運動の充実 元気アップタイムの実施 ④小中一貫連携型を視野に入れたカリキュラム作りと連携	・1時間のねらいを明確にし、視覚支援を効果的に提示しながら授業改善に取り組んできた。 ・1年生は何回も授業のルールを確認し、チャイムとともに授業を始めることができるようになった。 ・学びの基本姿勢はできているが、発言力のある児童に限られる。 ・TTで個別支援をしたことや少人数学習をしたことで学ぶ意欲が育っている。	B	・みんなができる・わかる授業について追究する。研究の方向を決め全職員が同歩調で取り組むことが必要。じっくり考える、友達と意見を交わしながら自分の考えを深める活動について研究を深めたい。 ・一人1台のタブレットをどう効果的に学習に生かすか、学年・学期ごとに目標を決めて探っていく。 ・教科担任制を志向した授業交換を積極的に行い、職員の教科指導の専門性を高める。	

領域	評価項目	評価の観点	成果と課題	A	B	C	D	改善策・向上策
教育活動	体力向上	心身の健康と体力作り	・寒い冬でも元気アップのおかげでそのまま外で遊ぶ子が多かった。室内に閉じこもりがちな児童も5分であるが、生活の一部として定着し体を動かす楽しさを味わえた。 ・家庭の協力は差がある。エリアトークで地域へもお願いした。	○				・元気アップタイムは期間ごとテーマや目標を決めて取り組ませる。 ・ゲーム内のトラブルや朝食の習慣づけについては継続的な取り組みが必要。 ・学級懇談会などでメディアとの付き合いについて話題にし、考えていただく。
	学力向上	学びの基本姿勢の徹底	・武石の学びを支える基本的な学習ルールを定着させることができたか	○	○			・毎時間の意識した積み重ねが大事である。年度始めと学期始めのごとの意識付けを強化する。
		「みんながわかる・できる」授業づくり	・授業のユニバーサルデザイン化や「4つの学び」を進めることができたか。 ・グループ・ペア活動等、友とのかかわりの中で「みんながわかる・できる」工夫をすることができたか。	・まだ聞く姿勢や意見を言うときのルールが定着していない児童や学級があるが、根気よく取り組んだ。 ・コロナ感染症対策のため、思うようにペア・グループ学習ができなかった面がある。 ・みんなが集中でき、わかる、できる学習環境や方法についてはどの教室でも工夫が見られた。	○			・学校全体で何を大事にしていこうか、方向性を出していきたい。 ・一人一公開授業を実施し、互いの授業から学び合いたい。 ・自分の考えを伝えあう機会をもっととっていく必要がある。
		自主学習の定着	・「つむぐ」の活用ができているか。 ・放課後自習室の活用ができたか。	・「つむぐ」の活用をし、自主学習が定着。 ・放課後自習室を利用し意欲的に学習に取り組んでいる児童が多い。職員が個別に指導でき良い。	○			・「つむぐ」は来年度も使用し、南部支会で提案する「家庭学習の手引き」を活用する。自主学習する習慣を身につけたい。 ・放課後自習室は来年度も継続する。
学校運営	地域との連携	人権が尊重される教育活動や人間関係づくり	・学級・他学年交流・児童会活動の中で、また地域の方ともつながりをつくる活動ができたか。	○				・工夫して交流活動を生み出していく。 ・各学級、学級力が高まっていく学級経営を行い、何か気になる点があったら、全職員で情報共有し対応していく。
		相談・支援体制	・児童、保護者の声を大切に相談を行い、支援につなげることができたか。	○				・保護者や児童の声を受け止め、複数の職員で儒法共有し支援していく。要支援児童・家庭については定期的な支援会議を開催する。 ・2回の相談旬間を大事にしていく。
	情報発信	情報発信	・学校便り、学年便り、ホームページ等で学校の様子を伝えているか。	○				・さらに、通信のネット配信も考えていく。また地域へはエリアトークの活用をしていく。
		地域から学ぶ・地域の教育力の活用	・自然環境を生かした学びを進めたり、地域の教育力を活用したりすることができたか。	○				・コロナ感染状況を見ながら、地域の方の力をお借りしたい。武石かるたを手がかりに地域を学ぶ学習を展開していく。
研修組織	授業力の向上	・「みんながわかる・できる」授業実践のために、日々授業改善をし、研究会を通して学ぶことができたか。	・どの学年も自然環境を十分生かしながら学んだ。地域の方の応援ありがたい。		○			・各教科等の遅れを取り戻すことに精一杯になってしまった。一人一公開でお互いの授業を見合い、研修していきたい。ICTの効果的な活用研修の必要がある。
	情報の共有・全職員による学び合い・支え合い	・教科指導や生徒指導などに関わる情報を共有し、チームで支援・指導にあたれているか。	・同僚性の高い職員集団で良いと感じていたが、不祥事を出してしまった。 ・児童については常に職員室で情報共有し支援している。			○		チームでの対応ができる武石小の良さを継続していきたい。

A…達成された

B…ある程度達成

C…あまり達成されていない

D…達成されていない